



小特集

# クラウドソーシングの 現状と可能性



## 編集にあたって

森嶋厚行(筑波大学) 鹿島久嗣(京都大学)

クラウドソーシングとは、問題解決の手段として不特定多数の人に仕事を委託することです。インターネットの出現によって実現が容易になり、2006年にJeff Howeによって書かれたWiredの記事「The Rise of Crowdsourcing」によってクラウドソーシングという言葉が世に広まりました。それ以来、大きな注目を集め続けています。

クラウドソーシングが注目を集める理由の1つは、これまでは解決できなかった問題を解決できる可能性がある「新しいソリューションスペース」を提供するからです。クラウドソーシングは、計算機が処理の一部を人間に委託することにより人と計算機による計算を組み合わせる「ヒューマンインザループ」を実現するためのさまざまな手法を可能にします。

同時に、クラウドソーシングは人の労働の仕方

に影響を与え「新しい社会のデザインスペース」をもたらします。労働の粒度、労働を行う場所、労働の選択の仕方などに大きな影響をもたらすとともに、人と機械の役割分担に関しても再考を促します。現在、シンギュラリティに関する議論が注目を集めていますが、人が機械に搾取されない「人と機械の共生社会」のデザインを確立するための鍵となる要素の1つとなるでしょう。

クラウドソーシングはその手段としての強力さから、さまざまな研究コミュニティで注目を集めています。実際、クラウドソーシングをキーワードとする論文は増え続けていますが、これらは、さまざまな情報・計算機科学の分野で個別に発表されており、各分野でカラーの異なるクラウドソーシング研究が行われています。本特集では、分野にこだわらず重要と考えられるトピックの中か

# INDEX

1. オープンデータとクラウドソーシングの親和性  
—タスク設計と品質管理に関する検討—
2. マイクロタスク型クラウドソーシングの現状と課題  
—実際の運用の知見から—
3. クラウドセンシングの研究動向
4. クラウドソーシング研究のディシプリンとは？  
～クラウドソーシング研究のさらなる展開に向けて～  
—情報処理学会第 77 回全国大会 パネル討論報告—



らいくつかを選び第一線の研究者に執筆を依頼しました。

国立情報学研究所の大向一輝氏には、オープンデータにおけるクラウドソーシングに関して執筆をいただきました。記事では、オープンデータの再利用性を高めるためのクラウドソーシングのアプローチについて説明していただいています。ヤフー（株）の清水伸幸氏と中川雅史氏には、マイクロタスク型クラウドソーシングサービスの現状とそこでの課題について執筆いただきました。なかなか表に出てこない実際のサービスの課題が分かる貴重な記事となっています。東京工業大学の下坂正倫氏にはクラウドセンシングの研究動向について執筆いただきました。現在注目が集まっているクラウドセンシングに関して研究領域の概要とトレンドが把握できる記事となっています。

京都大学の馬場雪乃氏には、第 77 回情報処理学会全国大会で行われた特別セッション「クラウドソーシング研究のディシプリンとは？～クラウドソーシング研究のさらなる展開に向けて～」について報告いただきます。クラウドソーシングに関連する分野で活躍する研究者が集まり大変盛り上がった熱気が伝わる記事となっています。

広大なクラウドソーシングの領域をこの小特集で網羅することはできませんが、それぞれの記事は大変興味深いものであり、読者の皆様がクラウドソーシング分野をより深く知るための一助となれば幸いです。

(2015 年 7 月 2 日)